

2013年 (平成25年) 冬季号



職域充実に関する嘆願書提出

佐藤のぶあき議員、臨床工学技士の業務に理解を示す。



佐藤のぶあき氏に嘆願書の提出を行う 8月23日参議院会館にて (左より肥田理事長、佐藤のぶあき議員、門田副理事長)

去る八月二十三日、肥田理事長と門田副理事長が当選のお祝いを兼ねて参議院会館を訪問し、佐藤のぶあき氏と直接面会を行った。今回の選挙において「快適な透析医療の実現にむけて」

1. 災害などの非常時でも安心・安全な高度医療を受けられる体制を構築する。 2. 透析医療を備えた住環境 (老健・特養等) の整備を推進する。 3. 高度な生命維持管理装置の管理・操作ができる臨床工学技士を医療機関に配置する。という三つの公約を掲げた佐藤議員は、元国土交通事務次官でこれまで医療制度に直接関わっては来なかったが、「加速化する高齢化社会

みんなでやればきっと変わる!

会員数11月末現在

263名

■ 本年の活動報告

- 8月23日 佐藤のぶあき議員と面談
○ 10月 5日 九州臨床工学会にて啓発
○ 11月10日 中四国臨床工学会にて啓発
○ 11月14日 斉藤鉄夫議員を励ます会に参加
○ 11月16日 関東臨床工学会にて啓発
○ 11月20日 日臨工「たより」に掲載
○ 11月24日 愛媛県で連盟について講演
○ 11月25日 近畿臨床工学会にてピラ配り
○ 11月28日 全腎協今井会長と面談
○ 11月30日 中部臨床工学会にてピラ配り
○ 12月19日 自民党本都若松参事と面談

発行：日本臨床工学技士連盟 〒113-0033 東京都文京区本郷3-4-3 ヒルズ884・お茶の水ビル2F E-mail：info@ce-renmei.or.jp

斉藤鉄夫君を励ます会

公明党幹事長代行斉藤鉄夫議員を励ます会に参加しました。党内でも将来有望視されておられる方で、山口那津男代表を始め石破幹事長、菅元総理、石原伸晃大臣、岸田外務大臣など錚々たる顔ぶれのご挨拶がありました。日本臨床工学技士連盟は以前より斉藤議員と渉外を行っており、年明けにも佐藤茂樹厚生労働副大臣との面会が実現するよう要望を致しました。斉藤議員の活躍を期待するとともに今後も良好な関係を保ちながら支援を続けて行けるよう今後も渉外を行って参りたいと思っております。

また、臨床工学技士について「そのような医療技術職が存在することは知らなかったが、高度化する医療機器の専門は必須の存在である。今までの経験から物理的な環境を整えることに比べ、制度を変えて「そのような医療技術職が存在することは知らなかったが、高度化する医療機器の専門は必須の存在である。今までの経験から物理的な環境を整えることに比べ、制度を変



斉藤鉄夫君を励ます会

各地で啓発運動実施

本年の活動報告に記載したように、各地で連盟に対する理解と協力を呼びかける啓発運動を実施している。中四国臨床工学技士会と愛媛県臨床工学技士会では講演を、九州臨床工学技士会では連絡協議会の場で説明を、近畿、中部の臨床工学会では入会案内のチラシ配布を行った。10月に発行された日本臨床工学会の「たより」にも紹介文が掲載された。入会しない理由について尋ねると「連盟の存在を知らなかった」が最も多く、次に「しっかりと活動内容を把握してから」と続き、啓発の重要性を強く感じる。臨床工学技士の年齢構成が比較的若い人で多く構成されていることもあり、政治活動に対して敬遠がちな印象は否めない状況である。これまでの経験から、一方的に案内を送るのでは効果が薄いようである。入会された方は上司や友人、関係者からの説得があったのでようである。我々は今後とも根気強く必要性を伝えていくしかない。

- (県別入会者数) 北海道7 宮城県1 秋田県3 東京都9 神奈川県7 埼玉県2 千葉県8 茨城県12 栃木県2 群馬県2 山梨県3 新潟県1 長野県5 石川県2 福井県1 愛知県2 岐阜県1 静岡県3 大府府6 兵庫県8 京都府1 奈良県2 和歌山県1 鳥取県2 島根県2 岡山県3 広島県5 山口県2 徳島県2 香川県3 愛媛県15 高知県1

自民党本部に訪問

去る去る十二月十九日、日本臨床工学技士会の井福副会長と肥田理事長が自民党本部を訪問し、今後の協力体制について面談を行いました。自民党の機構図(自民党ホームページ機構図参照)に組織運動本部がありますが、その配下に団体総局があり各省庁の関係団体委員会が配置されています。医療に関わる厚生労働省の委員会もここに設置してあり、その中に厚生関係団体協議会があります。所属団体を拝見すると医師会や看護協会をはじめとする医療関係職能団体がズバリと名を連ねておりました。面会頂いた若松参事にこの協議会への参加を勧められ、当連盟としても参加する方向で調整に入りました。毎年春先に参加団体を一室に集め協議会を行っていただくこと、臨床工学技士以外の医療職能団体は、過去数年にわたって自民党との協議を毎年行っていたことになりました。名刺交換の際に臨床工学技士の名称を訪ねましたがやはりご存知なく、今回面会するのと判ってから臨床工学技士についての知識を学んだと言われ、ここでもPR活動が不足していることが感じられました。「一党としては協議会に不参加の状態では、預かるだけの対応しかしない」とも仰られ、協議会の参加は臨床工学技士の想い実現に向けて一歩前進することになると期待しています。